EV-WORLD

取扱説明書

Luming II

ETG102

2026/07/01

重要：
＊回生ブレーキによりバッテリーがダウンすることがあります。この時はすぐに降車し、クラッチを「手押し」モードにして安全な場所に移動してください。一度ブレーカーをOFF し、10秒待って再度ONにして復帰します。

7– 4に参考してください。

ご使用の前には必ず取扱説明書をよくお読みください。

販売会社

製造元　**株式会社EV-WORLD**
〒400-0115 山梨県甲斐市篠原3216-2

お問合せ
TEL/FAX 055-207-8152
平日 9:00 ～ 18:00 までにお問合せください。

はじめに

お買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買い上げいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 警 告 **取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**

注 意 **取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**

正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買い上げいただいた販売店から「取扱説明書」「車輌受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために …… 1-1
あなた自身のために …… 1-1
歩行者と他の車のために …… 1-3
環境との調和のために …… 1-4
交換部品と運搬 …… 1-4
安全な充電とバッテリー取り扱いの注意 …… 1-5

各部の名称 …… 2-1
左側面 …… 2-1
右側面 …… 2-2
後面 …… 2-2
運転装置と計器類 …… 2-3
専用充電器 …… 2-4

車輌の特徴 …… 3-1
主な特徴について …… 3-1
走行距離の目安 …… 3-1
バッテリー残圧の目安 …… 3-2

各部の取り扱いと操作 …… 4-1
キーの取り扱い …… 4-1
メインスイッチ …… 4-1
警告灯と表示灯 …… **4–2**
ハンドル周辺のスイッチ …… **4-3**
各装備 …… **4–4**

日常点検 …… 5-1
日常点検の実施 …… 5-1
日常点検箇所／点検内容 …… 5-1

バッテリーの充電 …… 6-1
充電の開始 …… 6-1
充電の進行状態の表示 …… 6-3
充電の終了 …… 6-4
充電する場所 …… 6-5
充電時間 …… 6-7
バッテリーの知識 …… 6-7

運転操作 …… 7-1
発進の準備 …… 7-1
発進 …… 7-3
加速と減速 …… 7-3
駐車 …… 7-4

点検整備 …… 8-1
点検整備の実施 …… 8-1
ファイナルギヤオイルの交換時期 … 8-2
モーター異音の点検 …… 8-3
低速、加速の状態の点検 …… 8-3
タイヤ …… 8-4
ブレーキの遊び、きき具合の点検 … 8-6
車体各部の給油脂状態の点検 …… 8-7
運行において異常が認められた箇所の点検 …… 8-7
灯火装置および方向指示灯の点検 … 8-7
バックミラー …… 8-8
充電器のコードと各プラグの点検 … 8-9
こんなときは …… 8-10

お車の手入れ …… 9-1
洗車 …… 9-1
保管のしかた …… 9-3

ユーザー情報 …… 10-1
車輌を廃棄する場合は？ …… 10-1
車輌情報 …… 10-1

製品仕様 …… 11-1

安全運転のために

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身のために

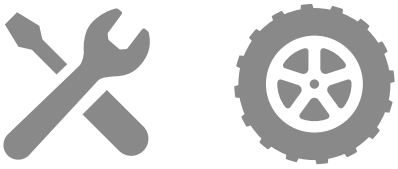
安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



安全項目
ラベル



日常点検を必ず行う

事故や故障を防ぐため、日常点検を行ってください。

安全運転は正しい服装から

靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

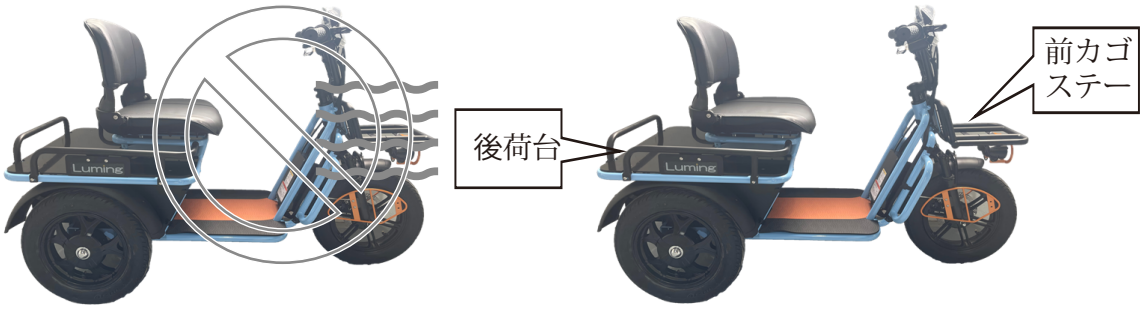
車の異状

異音がしたり、異臭や異常な振動があるときは、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

安全運転のために

冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行すると、モーターが停止するだけでなく、漏電やショートなどの故障の原因となります。やむをえず、冠水した道路を走行し、水に浸ってしまったときは、販売店または整備工場で点検・整備を受けてください。



荷物を積むときは

荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険です。
本車両は積載荷重 30kg 以下と設計されています。
ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。

注 意

法令により特定原付の積載荷重は運転者の体重を含めて最大で約100kgまで積載可能です。荷物を積むときは過積載しないように注意してください。

両手でハンドルを握る

運転するときは、両手でハンドルを握ります。

押して移動するときはメインスイッチを OFF にする

車から降りて押して移動するときは、メインスイッチを OFF にしてください。

安全運転のために

乗車定員は 1 名

定員を超えて人を乗せることは道路交通法によって禁じられています。

急激なハンドル操作はしない

急激なハンドル操作は横すべりの原因となります。絶対にしないでください。

むやみに部品の取り外しはしない

むやみに部品の取り外しはしないでください。事故や故障の原因となることがあります。

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

・交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。

・周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。また、歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

安全運転のために

駐車

・駐車禁止違反にならず、交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

・平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。

⚠ 警 告

走行直後はモーターやブレーキ関係の部品に直接触れないでください。高温になっていて、ヤケドするおそれがあります。

環境との調和のために

違法改造はしない

違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。

環境への配慮

廃車をするときや、寿命がきてバッテリーの交換が必要になったときは、環境保護のためお買いあげの販売店にご相談ください。

交換部品と運搬

アクセサリーや交換部品は純正部品を使用する

安全運転のために

⚠ 警 告

タイヤなどの消耗品やアクセサリーなどの部品は、販売店にご相談のうえ、必ず純正部品を取り付けてください。それ以外の市販品を使用しますと、事故によるケガや故障の原因になることがあります。また、保証の適用が受けられない場合があります。

安全な充電とバッテリー取り扱いの注意

・この車両の充電器は屋内専用です。

・雨や水などが当たらない場所で充電してください。感電やショートにつながるおそれがあります。

・漏電遮断器に接続された家庭用コンセントに電源プラグを接続して充電してください。正しく接続されていないと、感電やショートにつながるおそれがあります。

・充電コードや各プラグに変形や傷付きがあるときは、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。感電やショートにつながるおそれがあります。

⚠ 警 告

充電器を針金などでショートさせると、感電または故障のおそれがあります。

⚠ 警 告

充電中の専用充電器に長時間皮膚の同じ場所で触れないでください。

専用充電器は充電中に発熱し、高温になる場合があります。充電中の専用充電器に長時間皮膚の同じ場所で触れていると、低温やけどのおそれがあります。

⚠ 警 告

充電するときは、必ず専用充電器および専用充電コードを使用してください。

バッテリーなどが損傷するおそれがありますので、専用充電器以外は絶対に使用しないでください。

⚠ 警 告

専用充電器にカバーをしたり、上に物を置かないでください。また、複数の専用充電器を重ねたり密着させて使用しないでください。専用充電器は冷却のためファンが作動していますので、内部が発熱し、充電できなくなることがあります。

⚠ 警 告

専用充電器を幼児やペットがいたずらするところに放置しないでください。

⚠ 警 告

専用充電器を水没させたり、濡れる場所に放置しないでください。

充電中にバッテリーや充電器を破損させたり、感電や火災に至るおそれがあります。水が入ったと思われる場合は、必ず販売店で点検を受けてから使用してください。

⚠ 警 告

充電するときは、専用充電器を平坦な場所にしっかり設置してください。

このとき、必ずランプが上向きになるよう設置してください。コードが引っぱられたり、逆さのままで使用すると感電や火災に至るおそれがあります。

安全運転のために

⚠ 警 告

タコ足配線で充電をしないでください。

⚠ 警 告

専用充電器を落としたり、強い衝撃を与えないでください。

充電ができなくなったり、感電や火災に至るおそれがあります。

⚠ 警 告

・充電器や各プラグの改造、分解はしないでください。火災、感電、ショートの原因となります。

・車体が大きく破損、変形しているときは感電のおそれがあります。バッテリーや電気配線に触れないでください。

⚠ 警 告

・バッテリーを分解しないでください。

・バッテリーを加工、改造しないでください。

・異なった種類のバッテリーと接続しないでください。

・バッテリーを他の用途に使用しないでください。

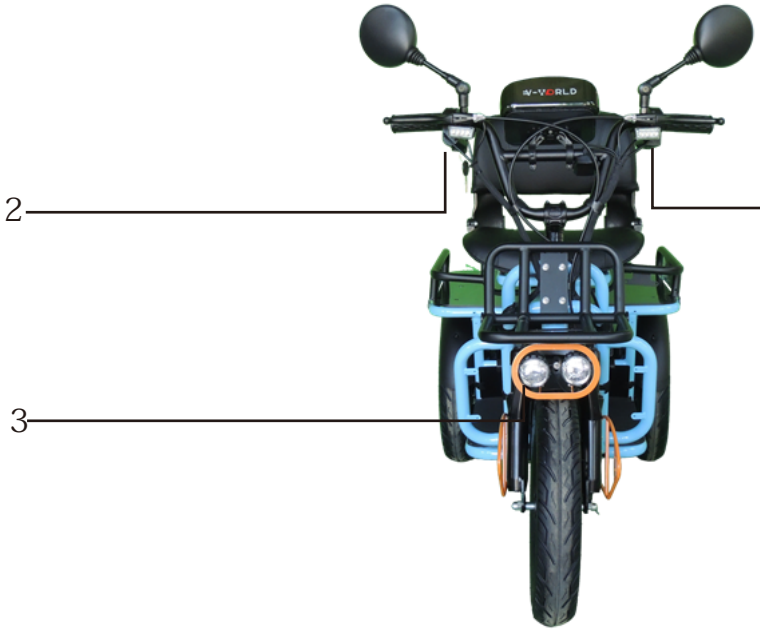
・バッテリーを落としたり、強い衝撃を与えないでください。

・故障したバッテリーは使用しないでください。その他の部品の故障の原因となります。

・バッテリーのコネクターに針金などを入れてショートさせると、感電または故障のおそれがあります。

各部の名称

前面



1. 前左ウインカーライト
兼速度指示ライト

→ 4-7「各装備」参照

2. 前右ウインカーライト
兼速度指示ライト

3.ヘッドライト

左側面



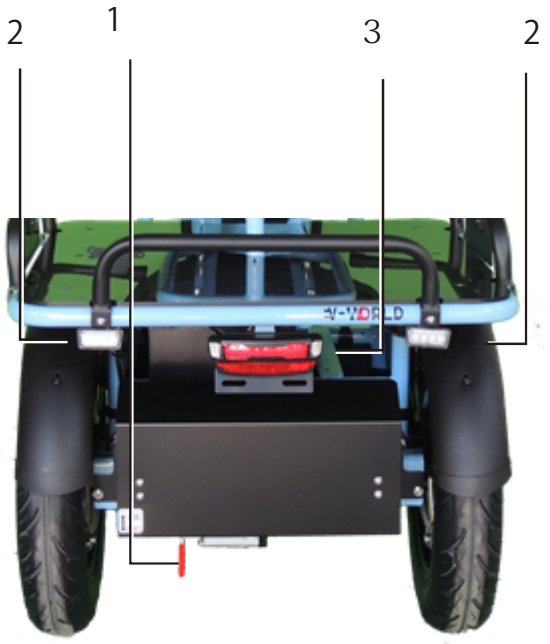
各部の名称

右側面



1. メインキー

後面



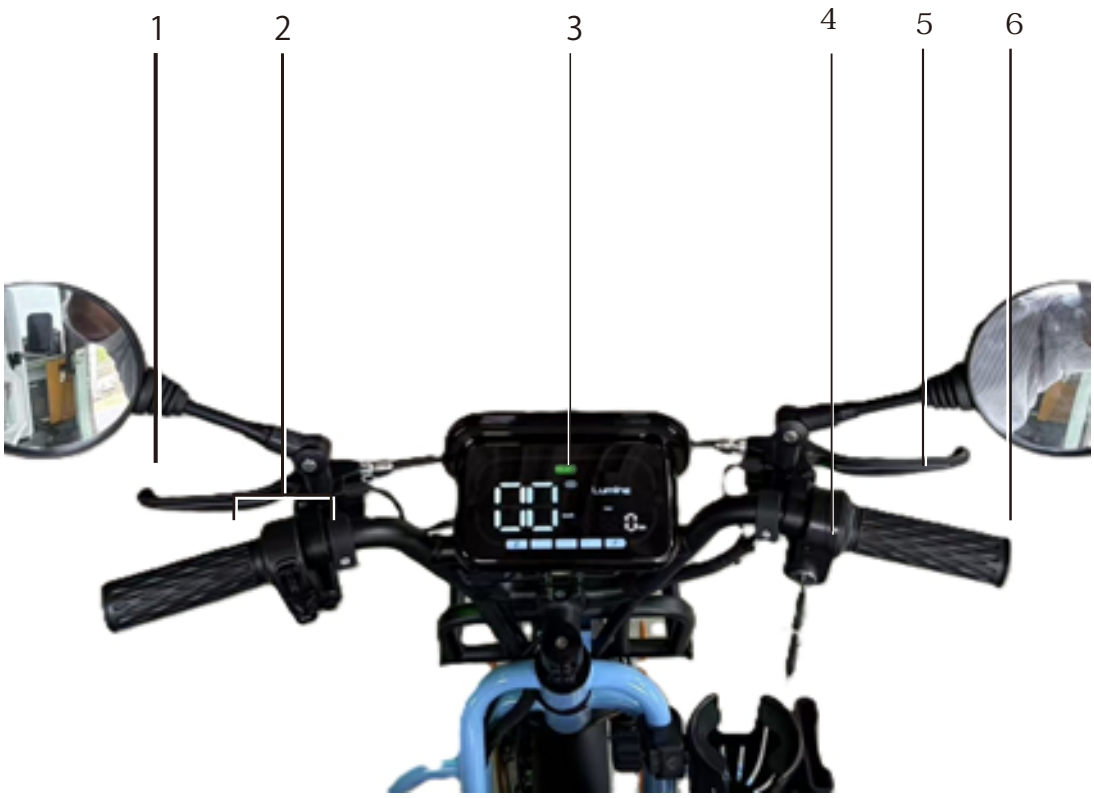
1. クラッチレバー

   → 7-1「発進の準備」参照

2. 速度指示ランプ兼後方ウインカー
3. テールランプ

各部の名称

運転装置と計器類



1. リヤブレーキレバー

→7-1「発進の準備」参照

2. ハンドルスイッチ（左）

→4-4「ハンドル周辺のスイッチ」参照

3. メーター

→4-3「警告灯と表示灯」参照

4. メインキー

→4-1「メインキー」参照

5. フロントブレーキレバー

6. スロットルグリップ

→7-4「加速と減速」参照

各部の名称

専用充電器

※故障の原因になりますので、必ず専用充電器にて充電してください。



→ 6-1「充電の開始」参照

車輌の特徴

主な特徴について

この車輌は、以下の特徴があります。

・走行に必要なエネルギーは電気のみを使用し、燃料やエンジンオイルの交換を必要としません。（ファイナルギヤオイルは定期交換が必要です）

・高性能モーターの採用により、走行中の騒音・振動を大幅に抑えるとともに快適な走行が楽しめます。

・漏電遮断器に接続された家庭用コンセント（AC100V）から充電することができます。

走行距離の目安

1 回の充電で走行できる距離は、以下のような走りかたや道路状況などにより異なります。

発進･停止の回数、車載重量、坂の勾配、路面の状態、風向き、風速、気温、充電状態、バッテリーの性能低下、タイヤの空気圧低下など。

一充電あたりの走行距離：　38km ※

※ 定められた試験条件（法定速度 での定地走行テスト）のもとでの値。

走行時の気象、道路、整備などの諸条件により異なります。

・バッテリーの特性上、気温の変化（バッテリー温度の変化）により、走行できる距離が短くなる場合があります。

・車両の負荷（乗員の体重や荷物など）が 10kg 増加すると、走行できる距離が 5 〜 10%短くなります。

車輌の特徴

バッテリー残圧の目安

バッテリー残圧表示計の見かた

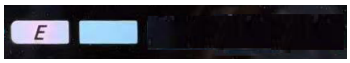
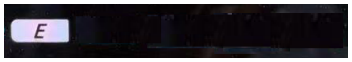
メインスイッチを ON にすると、バッテリー残圧表示計が残圧を示します。

※バッテリー残圧表示は、停車時と走行時で変わります。走行時の残圧表示を確認してください。



バッテリー残圧表示計

バッテリー残圧の目安

走行中のバッテリー残圧表示	バッテリー残圧の状態
 ～ 	走行可能です。
	登坂力などが低下します。早めに充電してください。
	ただちに充電してください。

・バッテリー残圧の数値は参考値です。

各部の取り扱いと操作

キーの取り扱い

・キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、充分に注意してください。

・キーは バッテリーキーとメインキーそれぞれ2 本付属しています。1 本は予備として大切に保管してください。

・1 本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。

・キーを 2 本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。

注 意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。

キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

メインキー



メインスキーは、ヘッドライト、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」を行います。

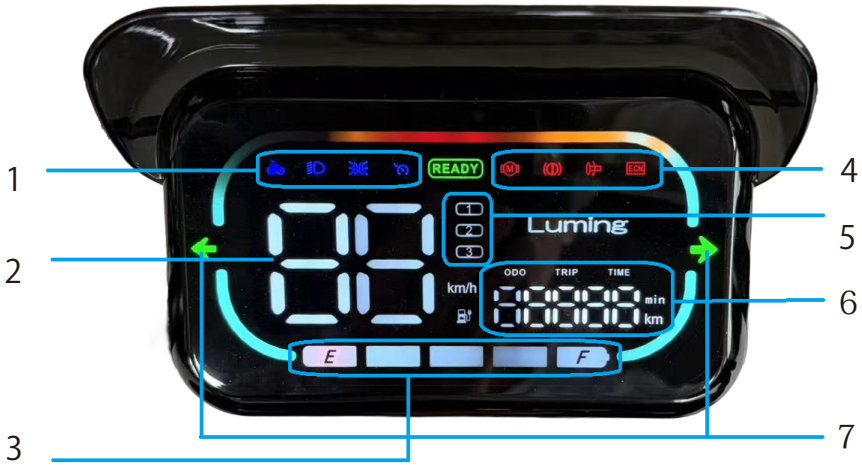
ON … 全ての電気回路に電源が供給されます。キーを抜き取ることはできません。
OFF … 全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

⚠ 警 告

走行中にメインキーを OFF の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

各部の取り扱いと操作

警告灯と表示灯



1. 未使用、機能しない
2. スピードメーター
3. バッテリーメーター
4. 警告ランプ
5. モード指示灯
6. オドメーター、トリップメーター、ランニングタイム
7. 方向指示器表示灯

スピードメーター

スピードが表示されます。

バッテリーメーター

バッテリー残量が表示されます。

ヘッドライト表示灯

ヘッドライトが上向きのとき点灯します。

警告ランプ

点灯されたら直ちに充電してください。

モード指示灯

①歩道モード

②車道モード

③リバース

オドメーター、トリップメーター、ランニングタイム

オドメーター、トリップメーター、ランニングタイム循環表示

方向指示器表示灯

⇦/⇨ 方向指示器に合わせて点滅します。

各部の取り扱いと操作

ハンドル周辺のスイッチ

＜左＞



4. モード切替スイッチ
5. 前進後退切替スイッチ

1. クラクション“🔔”
2. 方向指示器スイッチ“⇦/⇨”
3. メインキー

＜右＞



各スイッチの詳細

クラクション 🔔 押すとクラクションが鳴ります。

モード切替スイッチ

Ⅰ：歩道モード（最高速度6Km/h）

Ⅱ：車道モード（最高速度20Km/h）

前進・後進切り替えスイッチ

D：前進　　R：後進

N：ニュートラル

方向指示器スイッチ 〝⇦/⇨〟

進路変更の合図に使用します。

方向指示器を使用すると 〝ピーピー〟 音がします。

後進に切り替えると 〝ピッピッ〟 と音がします。

⚠ 警 告

方向指示器は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

注 意

電球を交換するときは、純正品を使用してください。純正品以外のものを使用すると、正常に作動しません。

※11-1 製品仕様「交換パーツなど」をご参照ください。

各装備

フロントカゴステー



フロントカゴステーが付いています。

多様な収納カゴ、ボックスを取り付けられます。荷重は10Kgまでです。

⚠ 警 告

運転操作を妨げるような積み方や、走行中に荷物が落下するおそれのあるような積み方はしないでください。

日常点検

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

⚠ 警 告

・日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。

・異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身または販売店で必ず整備を行ってください。

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります）

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、8-1 ページ以降の点検整備の方法を参照してください。

ブレーキ	・ブレーキレバーを握ったとき、握りしろが残っていること。ブレーキの効きが充分であること。
タイヤ	・タイヤの空気圧が適当であること。(前後輪 250kPa) ・亀裂、損傷がないこと。 ・異常な摩耗がないこと。 ・溝の深さが充分あること。（※）

モーター	・モーターに異音がないこと。（※） ・低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	・点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	・当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車など）に実施をしてください。

⚠ 警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容は販売店にご依頼ください。点検・整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

・点検・整備をするときは、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。感電やショートにつながることがあります。

・点検は平坦で足場のしっかりした場所を選んで行ってください。

・走行直後は、モーターなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。

・走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。

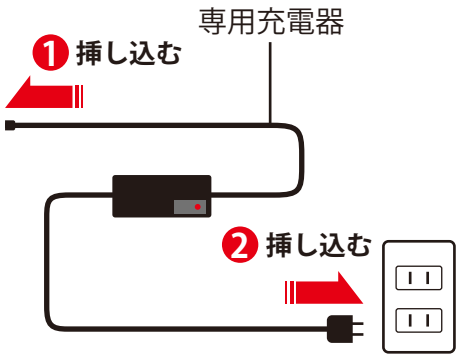
・異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身または販売店で必ず整備を行ってください。

バッテリーの充電

充電の開始

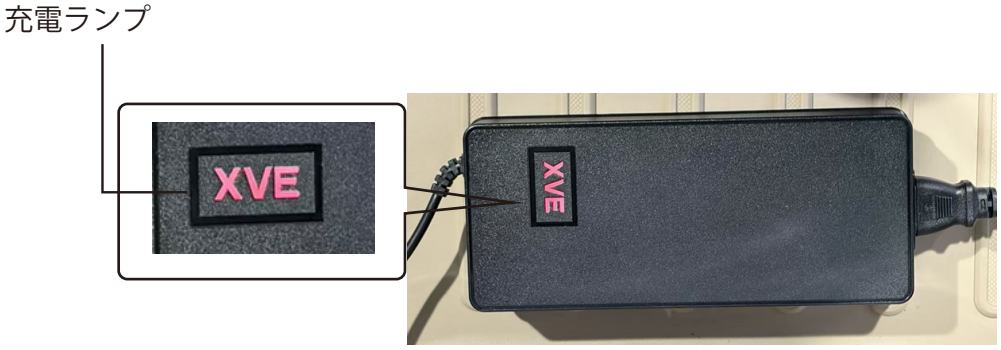
A. 車体に充電器を接続して充電する場合





1. 座席前方下の**バッテリーの充電**ソケットカバーを開けます。
2. **バッテリーの充電**ソケットに専用充電器を接続します。
3. 専用充電器のプラグを家庭用コンセント (100V) に差し込むと、自動的に充電が始まります。

※専用充電器の充電ランプが点灯します。



※充電ランプの詳細は、
6-3「充電の進行状態の表示」
を参照してください。

バッテリーの充電

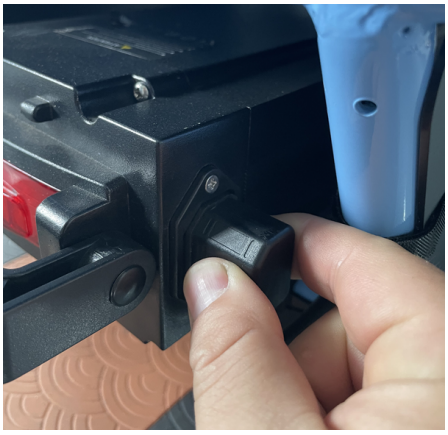
B. バッテリーを取り外して充電する場合



1. バッテリーのキーをOFF にします。更に押しながら左に回してロックを解除します。



2. バッテリーに繋がっているケーブルを抜けるまでバッテリーを手前に引き抜きます。



3. バッテリーに繋がっているケーブルを抜いて、バッテリーを引き出します。



4. 専用充電器をバッテリーに接続します。

5. 専用充電器のプラグを家庭用コンセント (100V) に差し込むと、自動的に充電が始まります。

※専用充電器の充電ランプが点灯します。

※上記写真はイメージです。参考までにしてください。

（6-3 充電ランプ写真を参照してください）

バッテリーの充電

充電の進行状態の表示

充電中は充電状態を専用充電器の充電ランプに表示します。

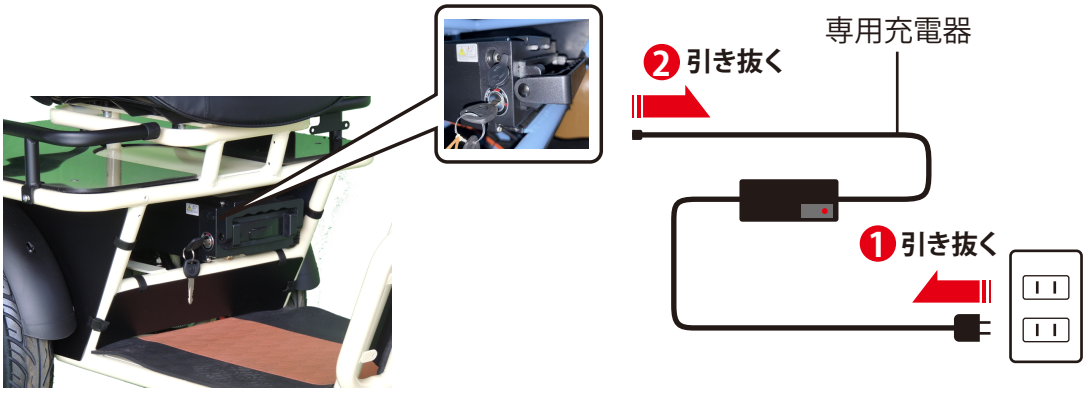
充電の進行状態	充電ランプ
充電中	
充電完了	

バッテリーの充電

充電の終了

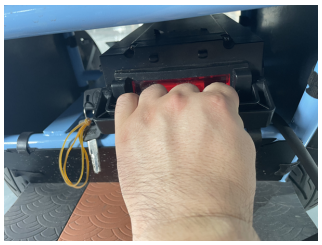
A. 車体に充電器を接続して充電する場合

1. 充電が終了したら、充電器の電源プラグを家庭用コンセントから抜きます。
2. 車体の電源ソケットから充電器を取り外します。
3. 電源ソケットカバーが閉まることを確認します。

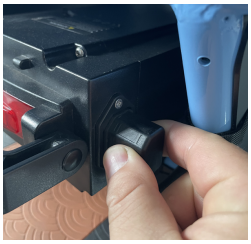


B. バッテリーを取り外して充電する場合

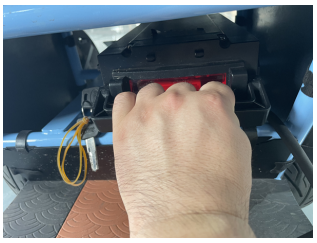
1. 充電が終了したら、充電器の電源プラグを家庭用コンセントから抜きます。
2. バッテリーから充電器を取り外します。
3. 取り外したときと逆の手順で、バッテリーを取り付け、電源ソケットを接続します。
4. バッテリーロックきーでロックします。すぐご乗車になる場合はキーをONの位置まで回してください。
   ※下記写真はイメージです。参考までにしてください。



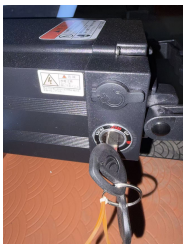
バッテリーをレールに合わせて接続
ケーブルが届くまで挿し込む



ケーブルをしっかり挿し込む



バッテリーを奥まで押し込む



バッテリーのキーをロックし、電源ONにする

バッテリーの充電

充電する場所

充電時間は充電環境に左右されます。また、充電環境が悪いとバッテリーや充電器の故障の原因となります。下記の諸条件を満たす場所を選んで充電してください。

・電源プラグ、充電器が雨や水に濡れないところ。

・直射日光が当たらない、涼しいところ。

・風通しがよく、湿気のないところ。

・幼児やペットなどが充電器、電源プラグにいたずらをしないところ。

・充電中の環境温度が 0°C ～ 30°C の範囲内の場所。（15°C ～ 25°C を推奨）

・コードをはさんだり、踏んだり、引っ張ったりするおそれのないところ。

充電おすすめ場所の参考例

・日陰で涼しく、風通しのよい場所

直射日光が当たらない、風通しのよい涼しい場所で充電してください。

・充電に最適な環境温度は約 15°C ～ 25°C です。

充電に適さない場所、充電方法

・直射日光が当たる場所や暖房器具の近くでの充電

・長い距離を走行した直後の充電

・充電途中でバッテリーが規定の温度を越えるとバッテリーの劣化に影響しますので、充電はできるだけ涼しい場所で行ってください。

バッテリーの充電

⚠ 警 告

・感電など充電中の事故を防ぐため、以下の内容を守ってください。

≫雨や水に濡れるところでは充電しないでください。

≫電源プラグや充電プラグに、ほこり、ゴミ、土、油、水などが付着しないようにしてください。

≫濡れた手で充電プラグや電源プラグの抜き差しをしないでください。

・幼児や、ペットなどの動物がいたずらするところでは充電しないでください。予想外の行動により、危害を受けたり火災になるおそれがあります。

・ガソリンなどの引火物の周辺で充電しないでください。火災の原因となります。

注 意

・ご使用にならないときは、電源プラグを家庭用コンセントにつないだままにしないでください。ホコリや異物の蓄積が火災、感電、ショートの原因となります。また、落雷などによる故障のおそれがあります。ご使用にならないときは、安全のためコンセントから電源プラグを抜いてください。

注 意

コードの取り扱いは充分注意してください。

ドアやサッシで充電コードをはさみ込まないでください。

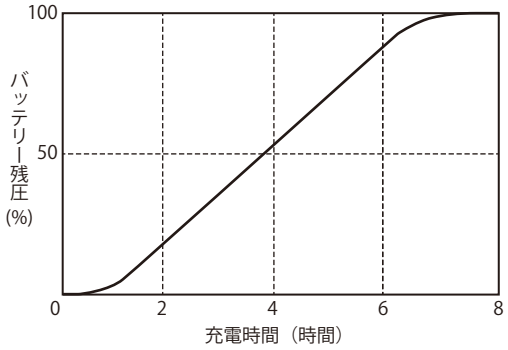
充電コードを強く曲げたり、上に物を置かないでください。

バッテリーの充電

充電時間

充電時間は、充電前の走行状態やバッテリー残圧・外気温により異なります。

バッテリー残圧 0%の状態のバッテリーを充電するのにかかる時間の目安は約 6 ～ 8 時間です。



充電過程のイメージ

本車輌の専用充電器は、バッテリーに負担をかけないように、バッテリー残圧に従い電流を制御して充電を行います。

バッテリー残圧	充電イメージ
0 ～ 20%	ゆっくり
20 ～ 80%	最大
80 ～ 100%	ゆっくり

バッテリーの知識

・充電前にバッテリーを使い切る必要はありません。

・使用年月や使用条件により徐々に放電容量が低下します。

・外気温により性能が変化することがあります。低温時は常温時に比べて、一充電あたりの走行距離が短くなり、また充電時間が長くなります。低温時は常温時に比べて放電容量が低下し、一充電あたりの走行距離が短くなりますが故障ではありません。

・極端に高温または低温の場所でお車を保管すると放電容量が低下することがあります。

・使用しなくても徐々に放電し、バッテリー残圧が減っていきます。

・常温と比較して、低温状態では放電容量がやや下がります。

バッテリーの充電

注 意

【リチウム電池の保管について】

・長期間保管後に使用するときは、使用の前に充電してください。

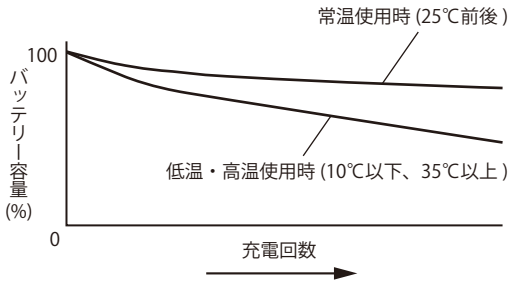
・長期間保管するときは、バッテリー残圧 30 ～ 70% 程度で、15℃～ 25℃の場所で保管するよう心がけてください。

・バッテリー残圧 50%以上または 20% 以下の状態で長期間保管しないでください。バッテリーがダメージを受け、容量が低下します。場合によってはバッテリーの交換が必要となります。

注 意

バッテリーの電圧が極端に低くなるまで放電してしまうと、充電ができなくなり、バッテリーが使用できなくなります。

バッテリー劣化のイメージ



バッテリーは、放電した状態が長いほど劣化が進みます。

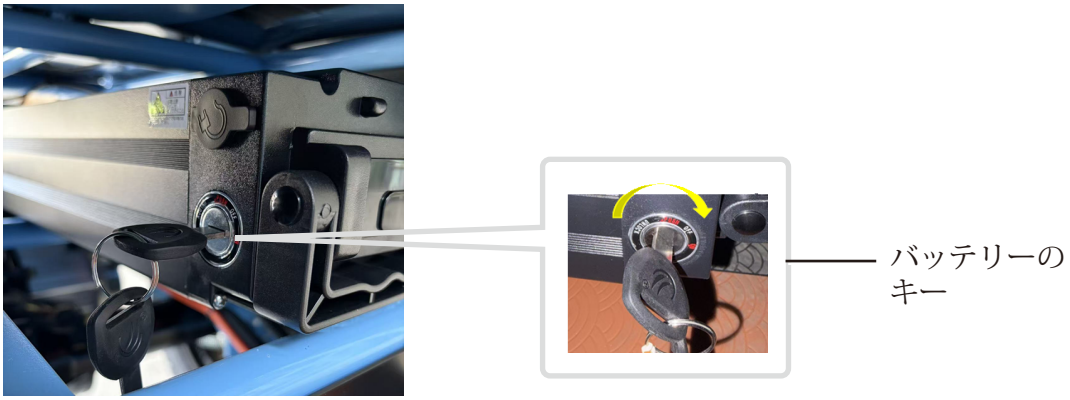
劣化を防ぐために、乗ったらすぐに充電することを心がけてください。

毎回の使用後、ただちに充電することをおすすめいたします。

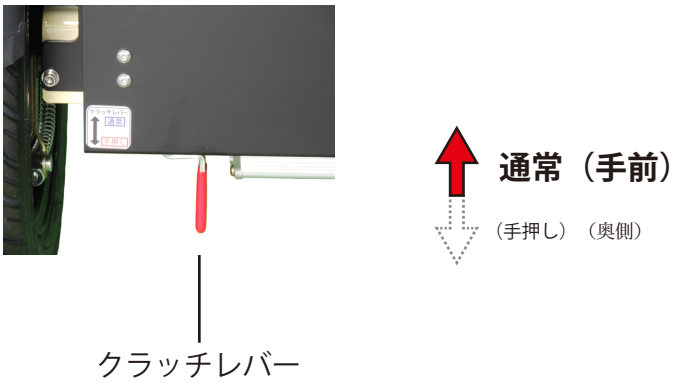
運転操作

発進の準備

1. バッテリーのキーを ON にします。



2. クラッチレバーを「通常」にセットします。



3. 車の左側に立って左手でリヤブレーキレバーを握ります。



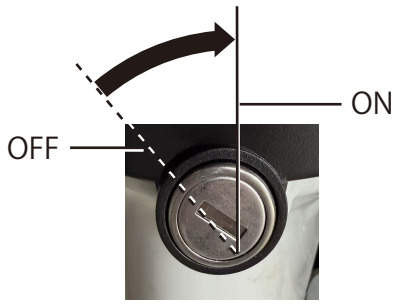
4. 両足をステップに乗せ、シートに座ります。

5. 車が動き出さないように、左手でリヤブレーキレバーをしっかり握ります。

⚠ 警 告

飛び出し防止のため、必ずリヤブレーキを作動させてください。

6. メインスイッチを ON にします。



7. バッテリー残圧表示灯でバッテリー残圧が充分であることを確認します。



運転操作

発進

1. 前進後退切替スイッチにより進行方向を選択します。
　＊安全のため切替スイッチは必ず「N」からスタートします。最初のポジションは「D」、「R」の場合には発進しません。一旦「N」にして１秒以上経ってから進行方向を選択します。

2. 前進の時にモード切替スイッチにより歩道モードと車道モードを切替します。後退の時にはモード切替できません。
　＊前後切替スイッチを一回後退して再度前進する場合は、安全のため自動に歩道モードになります。車道モードで走行したい時に再度モード切替が必要です。

3. 方向指示スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。

方向指示器を使用する時、後進の時はピーピー音が鳴ります。

4. 前後左右の安全を確認します。
5. リヤブレーキレバーをはなします。
6. まわりの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

⚠ 警 告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

5. 方向指示器を消灯します。

加速と減速

アクセルによる速度調節

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉じたりして行います。
速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。（次ページ）
速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。このとき電子補助ブレーキが作動し、減速します。（次ページ）

運転操作

ブレーキによる減速

1. スロットルを完全に閉じます。この時電子補助ブレーキが作動し、減速します。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々に絞り込むように握ります。



⚠ 警 告

・急なブレーキ操作は避けてください。横すべりや転倒の原因となります。
＊回生ブレーキによりバッテリーがダウンすることがあります。この時はすぐに降車し、クラッチを「手押し」モードにして安全な場所に移動してください。一度バッテリーのキーをOFF し、10秒待って再度ONにして復帰します。

・踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは事前に減速し、注意して走行してください。

・濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。

・下り坂でのブレーキ操作は困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。スロットルを全開しないでください。

・連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

駐車

駐車をするときは、盗難予防のため必ずキーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。

⚠ 警 告

・駐車禁止違反にならず、交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

・傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

点検整備

点検整備の実施

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。

⚠ 警 告

・点検整備を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。

・安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容は販売店にご依頼ください。

・点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。

≫点検は平坦で足場のしっかりした場所を選んで行ってください。

≫走行直後は、モーターなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。

≫走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。

≫異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身または販売店で必ず整備を行ってください。

点検整備

⚠ 警 告

走行直後はブレーキ関係の部品やモーターまわりに直接触れないでください。ブレーキディスク、パッド、モーターなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品やモーターが充分に冷えてから行ってください。

・点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります）

・点検の記録は廃車されるまで保存してください。

・メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

ファイナルギヤオイルの交換時期

初回：

2 年

2 回目以降：

2 年ごと

定期交換時オイル量：

0.1L



ファイナルギヤオイルの交換は、販売店や整備工場で行ってください。

点検整備

モーター異音の点検

モーターまわりから異音がしないかを点検します。

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

・メインスイッチを OFF にした状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。

・スロットルグリップまわりに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。

・洗車時にはスロットルグリップまわりに直接水をかけないようにしてください。スロットルグリップまわりの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などで拭き取ってください。

⚠ 警 告

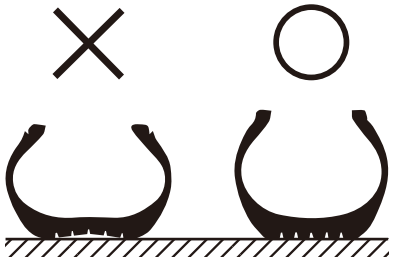
スロットルグリップの作動に異常があるときは、早めに販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握ります。
2. メインスイッチを ON にします。
3. ブレーキレバーを戻します。
4. スロットルグリップを徐々に回して加速したとき、スロットルグリップもモーターもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき異常を感じたら、販売店で点検・整備を受けてください。

点検整備

タイヤ

空気圧



タイヤ空気圧

1 名乗車：

前輪・後輪：

200 kPa (2.00 kgf/cm^2)

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。

・タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

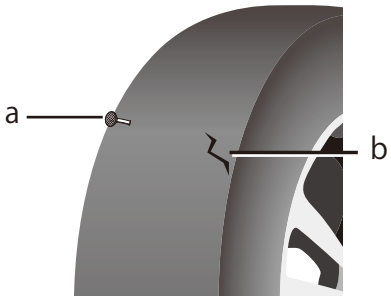
・空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。



a. 異物（釘、石など）

b. 亀裂、損傷

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

⚠ 警 告

・タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。

・過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。

・タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ

前輪：3.00-10

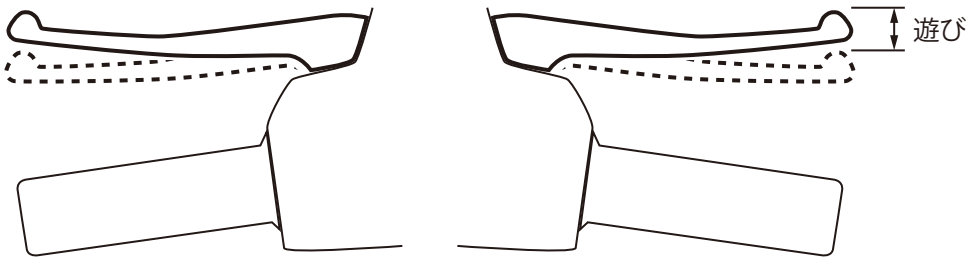
後輪：3.00-10

点検整備

ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキペダルを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



ブレーキレバーの遊び
約 10.0 mm

点検の結果調整が必要な場合は、調整を依頼してください。

⚠ 警 告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、販売店で点検・整備を受けてください。

⚠ 警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、販売店で点検・整備を受けてください。

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

灯火装置および方向指示灯の点検

メインスイッチを ON にします。

・ライトスイッチを ON にし、ヘッドライト、テールランプが点灯するかを点検します。

・フロントブレーキレバー、リヤブレーキペダルを別々に操作し、ブレーキランプが点灯するかを点検します。

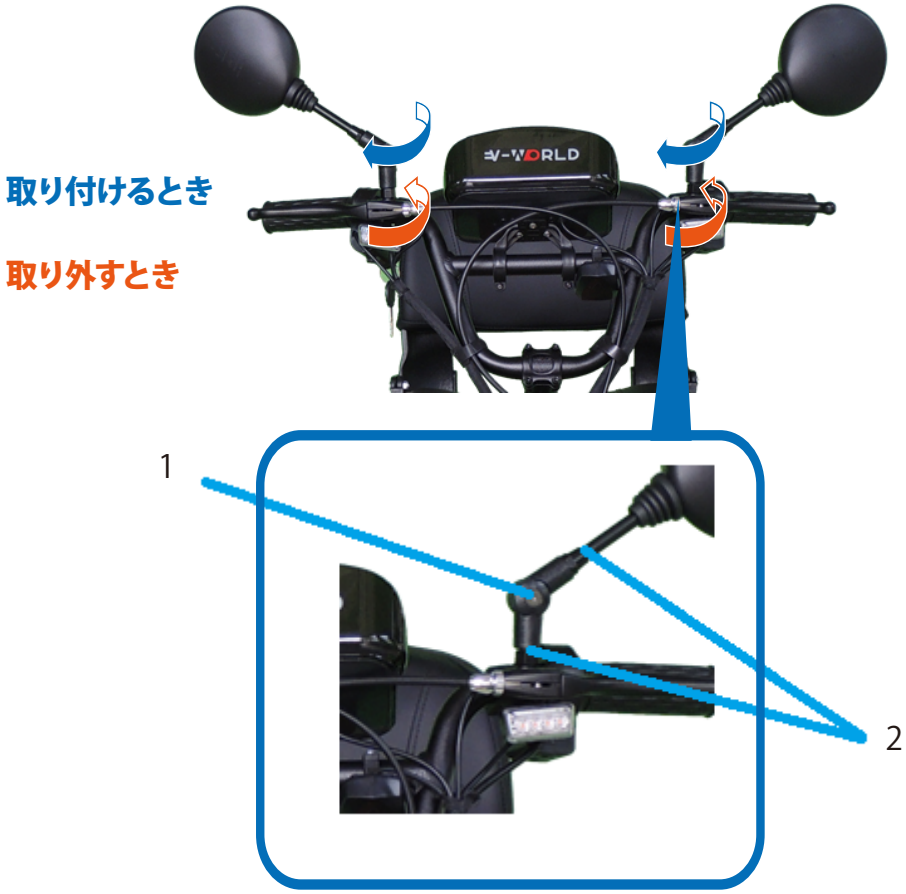
・方向指示器スイッチを操作し、左および右の方向指示灯が、前後同時にお知らせ音を伴って点滅するかを点検します。

・レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点検整備

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた



・バックミラー取り付けアダプターのボルト部は右ネジです。バックミラーを取り付けるときは、バックミラー取り付けアダプターを時計回り方向に回します。

・ミラーアームの角度合わせた後、「2」は14mmスパナ―、「1」は5mm六角レンチで固定します。

・バックミラーの取り外しは、取りつけと逆の手順で行います。

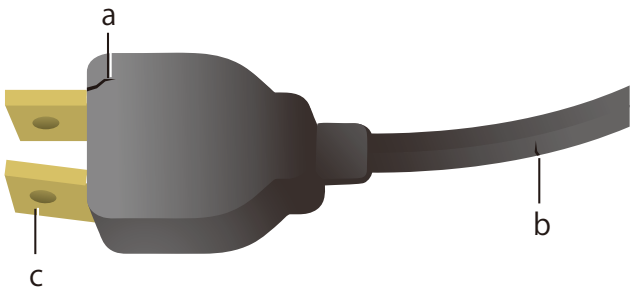
・

点検整備

充電器のコードと各プラグの点検

・コードおよび各プラグに亀裂や割れ、変形などの損傷がないことを点検し、異常がある場合は充電操作を絶対に行わず、販売店に整備を依頼してください。

・コードおよび各プラグに汚れや異物の付着がないことを点検し、付着している場合は乾いた布でふき取ってください。



a. 割れ

b. 亀裂

c. 変形

⚠ 警 告

・電源プラグをコンセントに差し込んだ状態で点検・整備をしないでください。感電やショートのおそれがあります。

・充電器のコードや各プラグが損傷、変形している場合は、必ず新品に交換してください。感電やショートによる火災のおそれがあります。

注 意

点検時に充電器のコードや各プラグに防錆剤、有機溶剤や油脂類などが付着しないようにしてください。

点検整備

こんなときは

こんなときは、販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

電源が入らない（メーターが点灯しない）ときは？

1. バッテリーのキーが ON になっていますか？

シート下にバッテリーのキーを ON にしてください。

2. バッテリー残量はありますか？

バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。

以上のことを確認しても電源が入らないときは・・・・

販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の項目を確認してください。

1. メインキーが ON になっていますか？
2. 各スイッチを作動させていますか？

以上のことを確認しても、ランプ類が点灯しないときはランプの球切れが考えられます。11-1 ページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

注 意

電球を交換するときは、純正品を使用してください。純正品以外のものを使用すると、正常に作動しません。

走行中にモーターが止まったときは？

次の項目を確認してください。

1. バッテリー残量はありますか？

バッテリー残量表示灯でバッテリー残量を確認してください。バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。

2. バッテリーのキーが作動していませんか？

バッテリーのキーが作動している場合は、通常（ON）に戻してください。

（4-4「ハンドル周辺のスイッチ」をご参照ください）

以上のことを確認しても、モーターが回らないときは・・・・

販売店で点検・整備を受けてください。

⚠ 警 告

・車体を押して移動する場合は、メインキーを OFF にし、クラッチレバーを「手押し」にしてください。

・押して移動するとき、歩道のある場所では歩道を通行してください。

メインキーが ON のときにメーターやヘッドライトが消灯したときは？

次の項目を点検してください。

1. バッテリー残量はありますか？

バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。

以上のことを確認してから再度メインキーを ON にしてください。

再度メインキーを ON にしてもメーターが点灯しないときは、販売店で点検・整備を受けてください。

点検整備

充電コードを接続しても充電できないときは？

1. 充電ケーブルしっかり挿していますか？

充電ケーブルをしかっり挿し込んでください。

充電器から異臭、煙がでるときは？

コンセントから電源プラグを抜き、ただちに使用を中止してください。販売店で点検・整備を受けてください。

1 回の充電で走れる距離が著しく短くなったときは？

バッテリーの寿命です。

販売店でバッテリーを交換してください。バッテリー交換は有料です。

漏電遮断器が作動して充電ができないときは？

充電操作を止めて、販売店で点検・整備を受けてください。

お車の手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください

注 意

・マット塗装部分は、洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。

・マット塗装部分は、ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。

・マット塗装部分は、コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

・中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。

・洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。

・車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

お車の手入れ

⚠ 警 告

・洗車をする際、バッテリーやブレーカーに水がかからないように注意してください。

・洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

・コードやプラグは水で洗わないでください。汚れたときは、乾いた布でふき取ってください。

注 意

・スロットル、電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。

・ヘッドライト、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

・ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品は、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

・高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

お車の手入れ

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

保管のしかた

保管場所



保管場所は慎重に選びましょう。

・平坦で安定のよいところ。

・風通しがよく、湿気のないところ。

・雨つゆや直射日光が当たらないところ。

・車はできるだけ敷地内に保管してください。

保管方法

・盗難予防のため、車から離れるときは必ずキーをお持ちください。

・屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはモーターが冷えてからかけてください。

注 意

6–7「バッテリーの知識」の項目に従ってバッテリーを充電してください。バッテリーは、完全に放電してしまうと再充電して使用することができなくなることがあります。

・保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。

長期間保管して再使用するときは

・長期間（1 か月以上）保管して再び使用する場合は、必ず充電をしてから使用してください。（通常の充電よりも若干時間がかかる場合があります。）

・走行前に、各部の点検をしてください。

・充電する前に、バッテリーと充電器の点検をしてください。

ユーザー情報

車輌を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される車輌がある場合は、ナンバープレートを管轄する市区町村の役所で廃車手続きを行ってください。

車体は解体業者などに依頼し、解体（スクラップ）してもらってください。

車輌情報

車台番号



ヘッド部のフレームに刻印
（がごステーの下）

ナンバー登録、自賠責保険の加入などに使用します。

（ナンバー登録や自賠責保険加入について、詳しくはお買い求めの販売店にご相談ください）

製品仕様

ETG102

全長/全幅/全高	1,400 / 595 / 960㎜
ステップ高	210㎜
軸間距離	985㎜
車両重量	61Kg
車両総重量	150Kg
乗車定員	1名
一充電走行距離	38Km
定格出力/最高出力	500W/600W
最高速度	20Km/h

懸架装置	前輪:テレスコピック フォーク後輪:直結
ブレーキ	前輪:ディスクブレーキ 後輪:ドラム式＋アクセル連動 電磁制動装置
タイヤ	前輪:3.00−10 後輪:3.00−10
バッテリー	リチウム電池 48V/18Ah×1 個

※1 平坦路無風時、乗員体重 60kg における法定速度での定速走行による。

交換パーツなど

ヘッドライト	専用 48V LED　白色
ﾃｰﾙ/ﾌﾞﾚｰｷﾗﾝﾌﾟ	専用 48V LED　赤色
方向指示灯（前）	専用 48V LED　黄色
方向指示灯（後）	専用 48V LED　黄色
モード指示灯	専用 48V LED　緑色

ﾌｧｲﾅﾙｷﾞﾔｵｲﾙ	80W90, 0.1L
ﾀｲﾔ空気圧（冷間時）	前輪・後輪：200kPa